

ふくえくぼ(モモ)

＝福島県農業総合センター果樹研究所＝



このモモは、本県の主力モモ品種「あかつき」から茎頂培養と放射線育種技術を駆使して育成した早生品種です。

福島市での収穫時期は7月中旬～下旬で、大きさは「あかつき」よりもやや小振りです。果肉は乳白色で果汁が多く、酸味が少なく、早生品種の中では食味が良いモモです。



「あかつき」の茎頂培養



γ線照射(昭和62年)



鉢に移植して育成



果樹園に移植して、「あかつき」より10日早く成熟することを確認しました。(平成2年)

平成7年に「ふくえくぼ」と命名し、平成8年6月に品種登録されました。(登録番号第5076号)

「ふくえくぼ」のつくりかた

◆ 「ふくえくぼ」の来歴

県果樹試験場で育成された「あかつき」の早生突然変異の品種で、福島市では7月中旬～下旬頃の「日川白鳳」から「八幡白鳳」の時期に収穫される品種です。

◆ 「ふくえくぼ」の生育

収穫盛りが7月21日、収穫期は日川白鳳よりやや遅く、果実の大きさは八幡白鳳程度です。

ふくえくぼの生育特性と果実品質

品種	発芽期	開花期			収穫期			果重 (g)	糖度
		始	満開	始	盛	終			
ふくえくぼ	3/28	4/18	4/21	7/1F	7/21	7/24	240	1.4	
日川白鳳	3/26	4/16	4/19	7/17	7/1E	7/20	225	0.4	
八幡白鳳	3/26	4/15	4/21	7/20	7/20	7/2E	237	2.2	
曉星	3/25	4/15	4/21	7/2E	7/30	8/ 5	213	3.3	
あかつき	3/25	4/15	4/21	8/ 1	8/ 4	8/ 5	261	3.2	

1990年～1993年の平均値

◆果実の特性

- 果形は偏円形で大きさは230g程度。着色は容易で、乳白色の地色に全面に濃く着色する。
- 果肉は乳白色で溶質であり、果肉内の繊維は比較的少ない。粘核で果肉内及び核周囲の紅色素は少ない。
- 糖度は10～12度で中程度であり、酸味は少なく、果汁は多いが日持ち性はやや短い。
- 収穫前に降雨が多いと、樹勢が弱い樹を中心に裂果の発生が見られることがある。

◆ふくえくぼの果実肥大と着色管理

□果実肥大と摘果

幼果期は「あかつき」と似た果実肥大であるが、硬核期が終了する満開後70日頃から急激な果実肥大を示す。

大きい果実ほど糖度が高い傾向があるため、果実当りの葉数を多めに確保し大玉生産に努める。

硬核期は満開後50日頃から70日頃までの約20日で、仕上げ摘果は満開後40日頃に実施し、修正摘果は果実肥大が急激に進む満開後70日以降に実施する。

着色開始期頃に陽光面に裂果が発生することがあるので、裂果した果実は修正摘果時に摘果する。

□着色管理

「ふくえくぼ」は着色容易な品種であるが、着色管理は樹冠内部を含めて品質を揃えることを目的に実施する。

「ふくえくぼ」は枝が柔らかく下垂しやすいので、枝つりや支柱立ては収穫2週間前頃までに行い、樹冠内部まで日あたりを良くする。

◆成熟特性と適期収穫

□成熟特性

「ふくえくぼ」の収穫期は満開90日頃からで、果実の着色開始期から約2週間後が収穫開始の目安となる。

また、「あかつき」や「日川白鳳」と比較して果肉の軟化が早く、日持ち性は「八幡白鳳」や「白鳳」とほぼ同程度である。このため、日持ち性を確保するためには、「あかつき」などより早い段階(果実の地色が緑白色の状態)で収穫することがポイントで、果実の地色に注意する必要がある。

□適期収穫

実際の収穫は、果形が豊満になり、着色が濃く入り始めた果実から収穫する。果肉の軟化に注意し地色が完全に抜けない緑白色の状態での収穫する。

樹上での成熟が早いので、収穫は1日おきに行い、果実温度の低い早朝に収穫するよう心がける。

◆整枝・せん定

「ふくえくぼ」の枝梢は、「あかつき」と比較して節間が長く、枝梢が細く、枝質が柔らかい性質があるため、せん定にあたっては必要に応じて「切り返しせん定」を加え、強めの側枝の育成を図る。

また、結果枝の特徴として、新梢の発生密度がやや粗く、中程度の長さの新梢が少ないため、長果枝などの長い結果枝と極短果枝(5cm以下)や短果枝(5～15cm)の短い結果枝の分布が多い。

安定して果実の品質の良いものが生産できる結果枝は、極短果枝や短果枝で構成された太めの側枝(前年に強い長果枝だった枝)であり、これらをいかに確保するかが高品質果実生産のポイントとなる。また、充実した太めの長果枝も結果枝として利用可能であるが、長めの中果枝や細い長果枝は下垂しやすく、果実も小さい傾向があるので、できるだけ結果枝としては利用しない。